

平成25年度道徳教育実践研究事業実践報告書

1 研究指定校の概要

| | |
|-------|---|
| 指定校名 | とくしまけんあわしりつひさかつしょうがっこう 徳島県阿波市立久勝小学校 |
| 校長名 | 川人 桂子 |
| 所在地 | 阿波市阿波町森沢28番地 |
| 電話番号 | 0883-35-2136 |
| 参考URL | http://www.tcu.or.jp/awa/awa-school/hisasyo/index.html |

2 研究課題

豊かな心を育てる学校教育 ～特色ある活動を通して～

3 研究の概要及び特色

本校は、徳島県北部、吉野川中流域北岸のほぼ中央部に位置する阿波市の西部、阿波町にある。児童数177名で9学級の規模である。すべて単学級で特別支援学級が3クラスある。児童は、たいへん素直で明るく元気である。また、与えられた課題や作業などに一生懸命取り組むことができる児童が多い。

昨年度の実践①豊かな心を育てる活動②職員研修③道徳の時間の充実から、思いやりの心や規範意識など、様々な道徳性を育むことができる体験活動が重要であると強く感じた。そこで、本校では、「道徳教育の充実を図り、規律ある生活を送ることのできる児童の育成をめざす」というねらいを設定し、様々な体験活動を通して、人・社会・自然環境と関わりを持つことで、健全で豊かな心を育み、学校の道徳教育の一層の充実を図りたいと考え本課題を設定した。

(1) 豊かな心を育てる活動

①高学年児童の「学校をよくしようとする意識」を高める

児童会活動の一環として、6年生が5,6名ずつ毎月輪番制で「久小スマイルリーダー」を担当している。具体的には、朝のあいさつ運動や、代表委員会の司会・運営、募金活動などの活動を行っている。また、各種学校行事の児童代表あいさつの役割も順番に担ってきた。

最高学年として、学校代表の立場や、下級生をリードする経験を通して、だんだんと責任をもった行動ができるようになってきている。さらに、各種行事の準備や運営に関わることで、友達と協力することの大切さを理解したり、自分が集団の役に立っていると感じたりすることもできるようになってきた。先輩たちから受け継いだ、久勝小学校の伝統を大切にしていこうとする気持ちも徐々に育ってきている。

また、異学年集団である「なかよし班」活動によって、異学年の友達とかかわり合いを深めている。七夕集会やゲーム集会の他、地域のクリーン作戦、運動会の紅白対抗種目や入場行進、阿波踊りにも「なかよし班」を取り入れている。その結果、異学年の交流が深められ、協力をしながら活動に取り組める児童が増えてきた。また、高学年が自分の立場や役割を自覚し、リーダーシップをとって、低学年の子を大切にする姿が徐々に見られるようになってきた。



クリーン作戦



児童代表あいさつ



交通安全についての呼びかけ

また、読書は、豊かな感性や情緒を育み、幅広い考え方を身につけることができ、子供たちが生きる力を養う上で大切な活動である。

そこで、図書委員会を中心として、読書集会を行った。まず、読書週間についての話、本を読んだ人へのしおりのプレゼント、読書の木についての説明などをした。そして、委員会の子供たちが考えた読書クイズを全校生で楽しんだ。最後に、詩「コスモスのうた」を6年生がお手本を示した後で、全員で声を合わせてんだ。体育館には子供たちの声が響き渡った。さらに、それぞれの学年で読み聞かせや音読発表会で異学年の交流を深めた。

このような活動を通して、高学年児童の「学校を良くしようとする意識」が高まるとともに、子供たちの感性が磨かれ、より一層、豊かな心が育っていくことを期待している。



読書集会



読み聞かせ



読書の木

(5年生から2年生へ)

②人とのつながりを深める

1年生では、野菜を育てたり収穫したりするなかで、幼稚園との交流を行ってきた。

まず、自分たちが幼稚園のときに植えたジャガイモやタマネギを収穫した。また、さつまいもの苗を植え、秋にはいもほりをして、やきいもパーティーをした。必ずペアになり活動するなかで、年長者として、年下の子に親切にしようというやさしい気持ちが育ってきた。

また、国語の時間には、音読の学習をしたことを活かし、読み聞かせを行った。さらに、2学期は、生活科の授業で製作した手作りのおもちゃを楽しんでもらう「あきのおもちゃランド」に招待した。「上手におもちゃが作れていた。」「楽しかった。」という幼稚園の子の感想を聞いてとてもうれしそうだった。このような経験が自信につながり、自尊感情を育てるのだと感じた。今回の体験には、昨年度に1年生にしてもらった体験が活かされており、継続して交流していくことが大切だといえる。



読み聞かせ



やきいもパーティー



あきのおもちゃランド

2年生では、生活科の学習で町探検や野菜作りをしたり、1年生と交流したりすることにより、地域の人々や自然とのかかわりを大切にしようとする心を育ててきた。

町探検では、お店や病院、郵便局・図書館などの施設などを見学した。この学習を通して、道徳的な価値の中で、出会った人に対して気持ちの良いあいさつや言葉遣いに心掛けること、友達と仲よく助け合うこと、感謝の気持ちを持つこと、きまりを守ることの点で道徳性に高まりが見られた。そして、普段の学校生活ではできない生きた学習ができ、地域の方々ともつながりができた。

また、「お手紙」の音読劇の発表や、「秋のわくわくランド」を通して1年生と交

流を深めた。子供たちは、1年生に喜んでもらうために、グループで協力して音読発表の練習をしたり、楽しいおもちゃを考えたりした。当日は、2年生らしく、堂々と発表したり、やさしく声をかけるなどのお世話をしたりして、どちらも心温まる楽しい会になった。1年生からは、「とても上手に発表してくれてわかりやすかった。」「いろいろなおもちゃがあり楽しかった。」などのうれしい言葉が返ってきて、お互いのよさを認め合うよい機会になった。



探検（郵便局）



秋のわくわくランド

③自然を大切にし、自然環境を守る心を育む

4年生では、1学期には、社会科で「くらしとゴミ」について学習をしたことと関連づけて、ゴミを処理している環境センターの見学をした。子供たちは、たくさんのゴミが毎日出ていることに驚くとともに、周囲の環境に配慮しながら、ゴミを処理していることを学び、自分たちもゴミを減らすために努力したり工夫したりしたいと感想を持っていた。家でもエコバックを使ったり、リサイクルできるゴミを分別しようとしたりする姿が日記などに見られるようになった。

2学期になって、県の環境課の方を招き、汚れた水のゆくえやきれいになる仕組み、水の大切さについて学んだ。子供たちは、微生物やあさりを使った実験で、実際に汚れた水がきれいになる様子を見て驚いた。授業後、水を大切にきれいに使うために、自分たちはどんなことができるのか考えて生活する姿が見られた。

また、地域の環境を守るために、どんな活動をしているのかについて、土地改良区の方をゲストティーチャーに招き学習した。農業に利用されている北岸用水の美しい水を守りたいという思いや願い、そのために、ゴミを拾ったり、ポイ捨てを防ぐ看板を設置したりするなどの活動の話聞き、そうした活動をしている人たちに感謝の気持ちを持つとともに、自分たちも地域の一員として、環境を守るためにできることは何か考える契機となった。そして考えたことを3学期の学習発表会のなかで、家庭や地域にむけて発信した。



ゲストティーチャーを招いて

④地域を愛する心を育む

3年生では、社会科の時間や総合的な学習の時間に学ぶ地域学習を道徳と関連づけ、道徳的な価値についての自覚を深め、道徳的判断力を高めるようにしてきた。

1学期には、久勝探検隊として学校周辺を探検した。地域の施設や設備、旧跡などを見学し、様々な職業の人々と触れ合い、地域についての理解を深めてきた。自分たちの生活を支えるために、たくさんの人々がいろいろな職に就き懸命に働いていることを、実際にその目で見ることにより、職業に貴賤はないことや労働の大切さ、一人一人の人間としての大切さにも気付くことができた。また、地域の人々が、自分たちを温かく見守り育ててくれていることにも気付き、地域の人々への尊敬と感謝の念を

持った。

阿波市見学では、バスに乗って阿波市の名所旧跡や特徴的なところを見学して回った。土柱・宮川内ダム・道の駅・古墳・工業団地・別埜池・吉野川の堰などを見学するうちに、地域への理解を深め、先人の努力や人々の苦労などに思い至り、郷土への愛情を深めることができた。また、別埜池についての話を土地改良区の人や地域の人から聞き、川人門三郎さんの偉業があったからこそ県下一の池が完成し、地域住民の生活が安定したことを学んだ。

3学期には、地域学習で学んだ様々なことを、学習発表会を通して他学年の子や保護者、地域の人々に伝えることにより、地域への理解をより深め、地域に生きる人の一員としてよりよく生きようとする態度を養った。



阿波市見学



別埜池の話



施設探検

5年生では、総合的な学習の時間の単元「My・米・ワールド」で、田植え、稲刈り、もちつき、しめ縄作りに行った一連の過程を体験し、米作りのすばらしさを学んだ。

「みんなで」「協力して」作業する体験を通して、一人ひとりが自分の役割を自覚し、進んで行動することができるようになってきた。また、手伝いやご指導に来てくださった地域の方とのふれあいを深めながら、お世話になった方に感謝する気持ちも持つこともできている。



もちつき



しめ縄作り

(2) 職員研修の充実

①「はぐくむ会」

全職員で児童の実態を共通理解するために「はぐくむ会」を設けている。担任以外の授業を担当している教諭や養護教諭も参加し、それぞれの視点から、気になる児童について話し合うようにしている。全校児童の共通理解を図り、全職員で取り組んでいくための大切な時間になっている。

②研究大会への参加

道徳教育先進校の研究大会（岡山大会・大阪大会）に参加した。道徳の授業、研究実践にたくさん学ぶところがあり、本校でもこれからの実践に生かしていきたいと考えている。

③道徳の時間の指導の充実

2・3・4年生で、研究授業を行った。校内研修では、資料の読み方や山場の捉え方、中心発問の考え方、役割演技について研修を深めた。

2年生では、体験活動で触れた道徳的価値について、道徳の時間の指導において

深化することができるよう、また、道徳の時間における道徳的価値についての自覚が子供自身の課題となり、道徳的実践へとつながっていくよう、相互の関連について工夫した。

まず、学級目標「スマイルキッズ」を振り返り、『もっとやさしさをいっぱいにしたい。』という気持ちを持った。そこで、友達のやさしい行為を「スマイルカード」に記入し、より、やさしさを意識するようになった。道徳の時間の、「ぐみの木と小鳥」の学習で、自分の体験と主人公の気持ちを重ねて考え、役割演技を取り入れて話し合うことで価値について深め、行為だけでなくやさしくした時の気持ちを振り返り、自分をより深く見つめることができるようにした。



スマイルカード



ぐみの木と小鳥（2年）

4 研究の成果

豊かな体験活動を積極的に取り入れることにより、思いやりの心や規範意識など様々な道徳性が育ってきたといえる。

体験活動を行うに当たっては、地域の温かい協力を得ることの意義はたいへん大きい。学校と家庭・地域が一つになって、子供たちの道徳性を育むことができるものである。その点で、まさに人の温かさがある地域が子供を育て、子供たちが体験活動を通して、そのような地域を好きになり、大切にしていこうという気持ちを持つことができている。

また、職員全体で「全職員で全校児童を育てていこう」という意識を持つことができたことは、子供たちが変わってきた大きな要因であり、同時にそのことが職員全体で協働して取り組もうとする意識を一層高めることになった。

5 今後の課題

本年度の成果や反省点を踏まえ、今後もさらに体験活動の確保と改善・充実を進めていきたいと考えている。また、これらの体験活動を道徳の時間ばかりでなく、他の教科とも関連づけてより一層の効果高めるために、発達段階を考慮した創意工夫のある効果的な指導を積み重ねていきたい。

また、道徳的な価値の自覚を深めるために、基盤となる豊かな感性を育てる指導などの研修をさらに深めていきたい。そして、子供たちの心をたがやし、自尊感情を育成し、「自分を大切にし、友達を大切にする」心と行動力のある子供たちを育てていきたい。

さらに基本的な生活習慣や価値観は家庭で育成されるところが大きく、学校生活にも影響を与える。そこで、学校における道徳教育について家庭に知らせる機会を持つとともに、学校と家庭が共に補い合い連携しながら道徳教育を進めていきたいと考えている。